



THE SERVICE CLUB OF THE YMCA
 AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y' S MEN' S CLUB

The Y's Men's Club of Kanazawa

CHARTERED JULY 9, 1947

c/o KANAZAWA YMCA 44-1-201 SATOMI-CHO KANAZAWA 920-0998 JAPAN

国際会長主題	「私たちは変えられる」 “Yes,we can change.”
アジア地域会長主題	「アクション」 “Action”
西日本区理事主題	「未来に残すべきものを守り育てる」 “Let's Protect and Cultivate What Should Be Passed on to the Future.”
中部部長主題	「ワイズ総活躍中部」
金沢クラブ会長主題	「語り合おう 伝え合おう 楽しいワイズライフを」

2019 6 月間強調

評価・計画

今月の聖句 (山内ミハルさん)

わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

ローマの信徒への手紙 5章 3～5節

6月強調月間

一年間を振り返りましょう。出来たこと出来なかったこと良かったところ悪かったところがあります。次の年度の為に良い引継ぎをしましょう。研修会での学びを生かしましょう。

遠藤通寛 西日本区理事 (大阪泉北)

6月例会プログラム

とき	2019年6月20日 (Thu.) 18:30~20:30
ところ	金沢ニューグランドホテル
会費	¥3,000 (会員は無料) ¥2,000 (メネット)
司会	数澤輝夫 君
開会・点鐘	幸正一誠 会長
主 題	司 会 者
ワイズソング	一 同
今月の聖句	司 会 者
会長交代式	司 会 者
ハッピーバースデー	幸正一誠 会長
食前の感謝	幸正一誠 会長
スピーチ	幸正一誠 会長
	“今期を振り返って”
一人ひと言	一 同
委員会報告	各 委 員
ニコニコタイム	朝倉みゆきさん
YMCAの歌	一 同
閉会・点鐘	幸正一誠 会長

5月 クラブ活動状況

第1例会 (5月16日 Thu.)

メ ン：朝倉、伊藤、数澤、幸正、西、山内 (6名)
 功労会員：澁谷 (1名)
 出席率 100% 充足率 250%
 メネット：朝倉、伊藤、数澤 (3名)
 ゲスト：大澤俊夫氏、神保勝己氏、清水淳氏、前田氏、吉川さん (5名)

第2例会 (4月30日 Tue.)

メ ン：朝倉、伊藤、数澤、幸正、山内 (5名)
 メネット：数澤、朝倉 (2名)

ニコニコタイム

13,000円

クラブファンド

累計 130,000円

B Fポイント

切手	0g	累計	1,575g
現金	0円	累計	0円

会 長	幸正一誠	書 記	西 信之
副 会 長	数澤輝夫		山内ミハル
	伊藤仁信	会 計	朝倉みゆき
		メネット会長	数澤淑子

第一例会：毎月第三木曜日 18:30~20:30

金沢ニューグランドホテル Tel (076)233-1311

第二例会：毎月1日 18:30~20:00

金沢ニューグランドホテル 2F (トレド)

2018-2019 年度を振り返る

幸正 一誠

今期、山本浩一郎ワイズが会長に就任予定でしたが、教会長老に任せられ重任はできないとの事でやむなく退会されました。突然の事で昨年に引き続き会長を引き受けました。会長主題は昨年同様「語り合おう 伝え合おう 楽しいワイズライフを!!」とし、そのパートⅡの意気込みでキックオフしました。その1年を振り返ると山本達也、澁谷洋太郎両ワイズが広義会員となられ、清水淳ワイズは「とやまクラブ」設立準備の為、例会参加が少なくなりました。しかし、メネット会やゲストの参加を頂き、金沢クラブらしい「ワイワイ ガヤガヤと楽しい」例会を催すことができ、季節毎の特別例会も種々楽しむ事ができました。全てはご参加頂いた皆様の賜物と深く感謝申し上げます。

しかし、私事を振り返るならば例会の翌日からは、ワイズを忘れ仕事と私生活に追われる日々を過ごす1年でした。ワイズ慣れし、会長職慣れし、緊張の無い1年を過ごしてしまいました。少数メンバーでの例会にも慣れてしまい『緊張感』を持っていたつもりでも持ててなかった今期です。会長主題もパートⅡとしましたが、他者へ「伝え合う」事は大変難しいことでした。「語り合う」ことは例会、特別例会等を通してできたのではないのでしょうか?皆さんはどうでしたか?

今期一番の出来事は清水会長率いる新【とやまクラブ】の設立総会と国際協会認証状伝達にスポンサークラブとして微力乍らも協力し参加できたことです。旧富山クラブも我がクラブの先達がチャーターしました。再度のチャーターに再び協力できたことは金沢クラブ全員の喜びです。国際協会より榮譽ある【コウノトリ賞】が授与されました。

しかし、残念な事ですが、山本達也ワイズは今期で退会されます。長年のワイズ活動と金沢クラブへのご奉仕に感謝申し上げます。

来期は、山内ワイズにバトンタッチ致します。中部部長職の疲労もこの1年で癒され、体力・気力とも充実された事と思います。2019-2020 年度を宜しくお願い致します。

この1年間、クラブメンバー、メネット、ゲストの皆様にお支えを頂きました事、心より深く感謝申し上げます。



Y'S MEN INTERNATIONAL

Serving Communities and Partnering the Mission of the YMCA Worldwide

Mr Issei Kosho - Club President
Y's Men's Club of Kanazawa
Ro-180, Kannondomachi
Kanazawa, Ishikawa, 920-0352
Japan

Geneva, 15 April 2019

Dear Club President Issei Kosho,

It has been said that "an organisation never stands still - it either grows or declines". You and your club have taken that challenge seriously in that you sponsored the following new club:

Y's Men's Club of Toyama

Your responsibilities do not, however, end with the Charter Ceremony. As the Sponsor Club you must closely follow and nurture "your baby" for at least one and preferably two years of its existence. Make frequent contacts by email and telephone and - if at all possible - by visitation. You must provide ongoing training of the new club's officers.

The International Council Meeting 1992 approved a "Stork Patch" to be given to Sponsor Clubs. Enclosed you will the Stork Patch for your club to be proudly displayed on your club banner.

With very best wishes and thanks to all in your club for this new club which, with your continued nurturing, will grow to become a strong link in our worldwide Y's Men Movement.

Y'sly and cordially,

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Jose Varghese'.

Jose Varghese

cc. AP Hiroyuki Tanaka

9 Avenue Sainte-Clotilde, 1205 Geneva, Switzerland | ihq@ysmen.org | +41-22-8091530 | www.ysmen.org
International President: Moon Sang-bong | International Secretary General: Jose Varghese

Motto: To acknowledge the duty that accompanies every right

ジュネーブ、2019年4月15日

幸正一誠クラブ会長殿

「組織というものは、決して立ち止まったままではなく、成長するか減退するかである」と言われてきました。あなたとあなたのクラブは、次の新しいクラブを立ち上げる真剣な挑戦を成し遂げました。

とやまワイズメンズクラブです。

あなたの責任は、しかしながら、設立の儀式で終わるわけではありません。スポンサークラブとして、あなたの「赤ちゃん」を、1年間あるいは少なくとも2年間の存在期間を密接にフォローし育て上げねばなりません。メールや電話で或いは可能であれば直接訪問することによって頻繁にコンタクトを取って下さい。新しいクラブの役員の皆さんを継続的に指導しなければなりません。1992年国際評議員会は、「このとり記章(ワッペン)」をスポンサークラブに与えることを承認しました。この「このとり記章」を同封しますが、これをあなたのクラブバナーに取り付けることを誇りとしてください。

心からのご多幸をお祈りし、あなたのクラブのすべての皆様が新しいクラブを引き続き育て上げ我々の世界的な Y's Men 活動に強力に繋がるようにしてください。

Y'sly 心をこめて

Jose Varghese

(翻訳 西 信之君)



「とやまクラブ」チャーターナイトに参加して 伊藤 仁信

2019（令和元）年5月11日（土）16時より「とやまワイズメンズクラブ国際協会加盟認証伝達式」が、とやま自遊館にて行われました。参加者はアジア太平洋地域会長、東西日本区役員、クラブ会長・会員ほか関係者約120名が参加いたしました。

幸正一誠金沢クラブ会長の司会のもとでプログラムに従い最初に、清水淳とやまクラブ会長がバナーを持ち先頭になって続いてチャーターメンバーが入場してきました。バナーは富山クラブ時代の物ですが精神を引き継いでいきたいとのことでした。次に柴田洋治郎中部部長の開会宣言・点鐘に続き、開会礼拝を中島完一富山YMCA常議員会議長が執り行い、続いて全員でワイズソングを歌いました。



伝達式に先立ち、柴田洋治郎中部部長からの挨拶と設立準備委員長として清水淳とやまクラブ会長より設立経過の説明がありました。その後いよいよ遠藤通寛西日本区理事より国際協会加盟認証状が、清水淳とや



ま会長に伝達されました。

これで今日の目的は終わりですが続いてクラブバナー披露、クラブメンバーの紹介、スポンサークラブの金沢クラブメンバーにより新会員にバッチの装着、とやまクラブ会長の決意表明などがあり、来賓の富山YMCA理事長、アジア・太平洋地域会長、西日本区理事、西日本区EMC事業主任の方々から祝辞をいただきました。



アジア太平洋地域 田中博之会長



スポンサークラブの幸正一誠会長から
記念品目録の贈呈

スポンサークラブの金沢クラブより万国旗の贈呈や富山YMCAの有志による感謝の歌などがありました。最後に謝辞を清水淳とやまクラブ会長が述べ、全員でYMCAの歌を歌って閉会・点鐘となり伝達式は終了いたしました。

一般的に司会者は多少なりとも緊張するものですが、今回の司会者は話しばかりでなくフットワークも素晴らしく、壇上と司会者席とを何回も往復し議事進行に努めておりました。しかし、少し動き過ぎたきらいはありましたがスポンサークラブの会長として責任ある役職を全うしようとしたためだろうと思われました。

18時より、懇親会が始まり司会は島田茂とやまクラブ書記と高松朱音（とやまクラブ）の二人でした。乾杯の挨拶は山内ミハル直前中部部長（金沢クラブ）でしたが、部長時代の事業方針の一つに富山にクラブ設立とありました。それが実現されたので今までのクラブ設立の努力がやっと実り、多分感極まったのでしょう乾杯の挨拶が長引いて乾杯用のビールの泡が無くなるくらいでした。



ワイズ将来構想特別委員会 森田恵三委員長

やっと宴会にはいり関係者同士は勿論のこと各クラブ同志の懇親を深める一時を持ちました。その間、森田恵三ワイズ将来構想特別委員長、戸所岩雄次期西日本区理事等の挨拶や依存症更生施設の皆さんによる和太鼓の演技、清水淳とやま会長の越中富山名物の抽選会の景品は菓ではなくお菓子でした。



朝倉秀之金沢YMCA理事長の腹話術、薦田正男津クラブ元会長の手品等々盛り沢山の催し物があり、最後に恒例の大野勉直前理事のバンジョー片手に清水会長とのコラボで終わりました。最後にアピールタイムと、清水会長から改めて感謝と今後の決意があり閉会となりました。エクスカージョンの1日目は富山YMCA拠点巡り、2日目は富山運河〜みなとまち巡りでしたがそれぞれの終点で解散いたしました。



【5月例会報告】

「砂漠を緑に、心も緑に」をテーマに、NPO法人「世界の砂漠を緑で包む会」会長大沢俊夫氏から中国・内モンゴル自治区・阿拉善（アラシャン）で荒涼たるゴビ砂漠に苗木を一本一本植えるところから始められた壮大な砂漠緑化活動のお話をいただきました。

中国・内モンゴル自治区・阿拉善（アラシャン）

ゴビ砂漠は雨雲がヒマラヤ山脈に遮られる為、非常に乾いた風が吹き付けます。さらに内陸にあるため大陸性気候であり、他の砂漠と比べ非常に高緯度であるにもかかわらず、夏である5月～9月までの間の最高気温は45度を超えることもある。しかし冬である12月～3月の間は、砂漠の年中灼熱といったイメージとはかけ離れた寒風吹きすさぶ厳冬の地である。特に1月末から2月にかけては最低気温がマイナス40度を割り込むことも少なくない。



雪の中での苗植え

留学生呉向榮君のホストファミリー（2年間）を務めたことから、彼の故郷であるゴビ砂漠を訪れ、砂漠の荒涼ぶりにびっくり、彼の父（現地知事）の要請もあり、緑化を決意した。翌年に会を設立、現在600名の会員が活動している。研修センターの周辺で砂漠の会が行っている活動で、紫色の小さな花を付けた花棒（灌木）が大きく育っている。植林は3月中旬から始まり、大体5月中には終えている。年中植林が出来れば、作業員の雇用も安定し、植林技術、後の管理のノウハウや従業員育成も出来る、そんなことから自前で良質な苗を作ることが出来れば活着率が高まり、給水も少なく、また、人手も掛からず、なお経費が掛からないことから、ポット育苗を始めた。苗を育てている畑は、限りなく広がる砂漠であり、そこでは現地の人たちがシャベルで小さな穴を掘り、手作業で植えていくのであるが、気の遠くなるような作業であった。灌水用に金沢市消防署の使用済み消防ホースが使われた。その後、中国ではまだ行われていない、ポットに肥沃な土を詰めることを呉向榮君が考え出しました。これで良質な苗が生産出来、10月中旬まで植林することが出来るようになり、活着率も80～85%になりました。中国緑化基金会や中国の企業等から多くの支援金が寄せられるようになりました。作業を能率化させるT字型の器具を使って、植林のスピードが格段に向上し、11月、12月の中旬までで1,000ha×220万本の植林をしました。

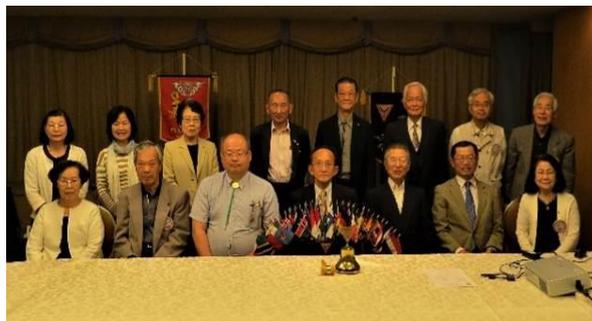


T字型の器具で苗植え

また、砂漠では植林後の給水が大変だが、地面が凍る前の11月、12月に植林を実施し、冬を越して2月下旬より段々暖かくなるので氷が溶け出して、植えた灌木も冬眠から覚め、水分を吸い始めます。今まで行った植林は植林後、直ぐ給水を行っていたが、その給水が要らなくなったわけである。

何事も一步一步から始まり、苦しみや悩みを乗り越えてこそ真の喜びがあることを教えられました。

（「砂漠通信」より大沢氏執筆部分参考）
（数澤輝夫記）



~~~~~お知らせ~~~~~

☆次期(2019-2020)役員

会 長：山内ミハル
直前会長：幸正一誠
副会長：数澤 輝夫・伊藤仁信
書記：西 信之
会 計：朝倉みゆき
ネット会長：数澤淑子
ネット会計：伊藤悦子

☆第23回 中部部会

日時：2019年9月8日（日）12：30～17：00
会場：名鉄ニューグランドホテル
名古屋市守区中村区椿町6-9
電話 052-452-5511
会費：10,000円

☆第24回 びわこ部会

日時：2019年9月7日（土）11：00～15：30
会場：ホテル ニューオウミ
会費：9,000円
DBC 滋賀蒲生野クラブとの交流会を兼ねます。

※びわこ部会と中部部会が9月7日（土）～8日（日）と続きますから、7日はホテルニューオウミで一泊して、翌日名古屋へ向かう予定です。今から予定に入れておいてください。

~~~~~YMCAからのお知らせ~~~~~

☆YMCA総会開催

日時：2019年6月6日（木）18：00～20：10
場所：北陸学院大学本館1階 ILC 教室
議題：第1号議案 2018年度事業報告及び決算の承認に関する件
第2号議案 2018年度監査報告に関する件
第3号議案 2019年度事業計画及び予算に関する件

その他、懇談会を行う。

理事:朝倉秀之、澁谷洋太郎、幸正一誠、

平口哲夫、山内ミハル、

監事:竹中丈晴、山野 晋

評議員:伊藤仁信、数澤輝夫、北肇夫、

三谷信三、西 信之、藤井辰男、

八反順一郎、田口昭典、井川英二、

宮本和幸



Happy Birthday

お誕生日おめでとうございます

伊藤 仁信君 6月 3日

7月の担当

聖句担当 : 山内ミハルさん

ブリテン執筆 : 山内ミハルさん

数澤 淑子さん



メ ネット 報



「旅支度が大変です！」

旅行の楽しさはその準備から始まります。例え1～2泊の旅でも若い頃は準備段階からワクワク、いそいそと旅支度をしたものでした。ところがです。お出かけ好きの私も歳を重ねるごとにその準備が億劫になって来たのです。準備の煩雑さや重い荷物を持って歩くことなど考えると、もう海外旅行は無理かなと半ば諦めていたところへ、鳥友達から電話で思いがけない旅のお誘いが飛び込んで来たのです。「モンゴルの探鳥旅行に行くんだけど一緒に行かない？」探鳥と聞いただけで、「面白そうね、前向きに考えてみる！」と電話を切った時にはもう心はモンゴルの空を駆け巡っていました。すると俄然気持ちが一変して“大丈夫！まだ大丈夫！”と自分に言い聞かせて、連れ合いの許可も取って参加申し込みに至りました。これまでの海外旅行とは違ってかなりマニアックな旅です。「東モンゴル・スフバートル探鳥旅行」と言うのがツアー名で、文字通りモンゴルで鳥を観るのが主目的、観光は一切ありません。ツアーリーダーのS氏は過去7回もモンゴル探鳥に行っているベテランで、ツアー参加が決まってからは頻りにメールが届きます。すべての情報や指示が綿密に、写真付きで送られてくるのです。メールの最後には必ず「何か心配なこと、わからないことがあったら質問してください」と添えてあります。モンゴルでの宿泊はホテルとキャンプが半々、私は気になる「モンゴルのトイレ事情は？」と質問メールを送ったら、「ツーリストキャンプはゲル泊りでトイレはありますが外です。また日中のドライブ中(探鳥中)は、平原でも起伏がありドライバーさんが条件の良い

ところで停めてくれて、トイレを済ませる」と返信がありました。さらにシャワーもないキャンプもあるので、携帯ウォッシュレットを持って行くことを勧められました。日本人は清潔好き、1世帯のウォッシュレット普及率は80%超えだそうで世界1です。本来旅行は行く先々の習慣や食事を楽しむべきだとは思いますが、海外旅行から帰って一番ほっとするのはトイレです。今回はこれまでの旅行とは少し事情が異なるので携帯ウォッシュレットなるものを忍ばせて行くことにしました。7泊8日の探鳥の旅、熟年男女12名に通訳と案内人がついて、広大な草原を3台のランドクルーザーで駆け回って鳥見三昧の1週間、どんな鳥たちに出会えるか期待は膨らむばかり、こんなワイルドな旅は多分最初で最後でしょう。ただ旅支度が遅々として進まないのが服装です。5月下旬で朝は2℃、昼間は31℃、湿度20～30%という過酷な条件、早朝の鳥見には真冬の防寒具、昼間は真夏の暑さ対策が必要、さらに必携は双眼鏡(望遠鏡は重いので諦める)、カメラ、鳥の図鑑、ヘッドライト(ゲルの夜のトイレ用)、長靴…と荷物を揃えながら、“大丈夫？大丈夫よ！”と自問自答の私です。S氏からは「モンゴルで観られる鳥のチェックリストの予習をしておくこと」というメール、そうそう一番大事なことがまだ出来ていないではないか！付け焼刃の猛勉強では間に合いませんが、私はまだ見ぬ野鳥と出会えるだけで満足、楽しい鳥見ができれば他に望むことはありません。

(数澤 淑子記)